

【検討事項】

- 1 今後の協議会及び部会の検討事項について（スケジュール） 資料 1
- 2 小児医療連携体制・受入体制構築事業について 資料 2
- 3 「1 か月児」及び「5 歳児」健康診査支援事業について 資料 3

【今年度の主な協議・検討事項】

①協議会（年2回の開催を予定）

- 協議会の組織及び運営 ※7月17日(水)に第1回開催済み
- 部会報告、その他協議・検討事項

②周産期医療検討部会及び小児医療検討部会（年2回の開催を予定）

- 今年度から実施する、小児・周産期医療に関する新規事業の検証を行う。
- 大阪府が主催となっている近畿ブロック災害訓練において実施する、小児周産期災害リエゾン訓練の検証・報告を行う。

【令和6年度のスケジュール（予定）】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月
協議会	第1回協議会							第2回協議会	
周産期部会 小児部会	第1回部会					第2回部会			

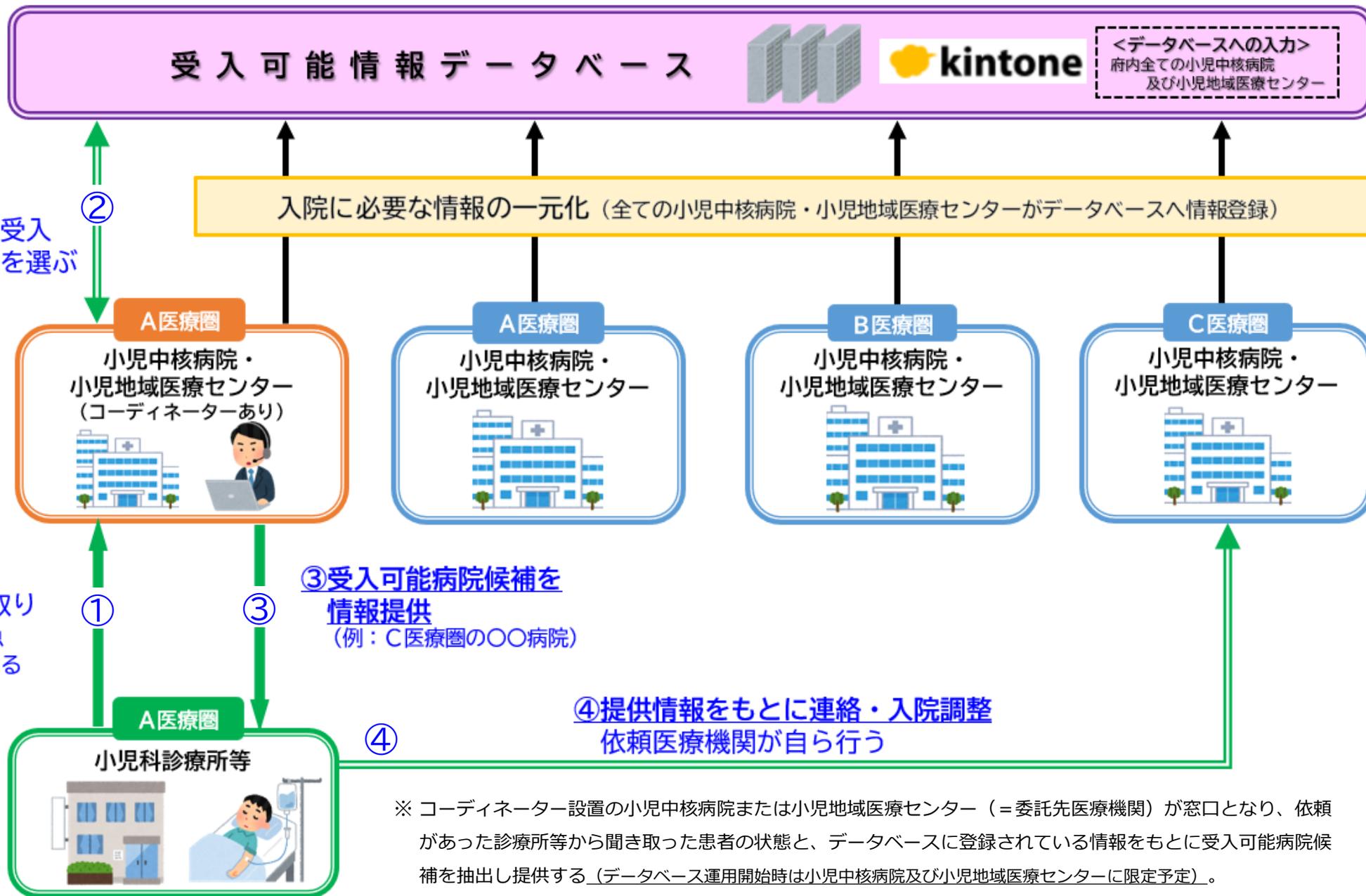
※①～④：
情報提供業務の流れ

②情報参照・
病院候補を選定
・患者の状態に応じ、受入
可能となりうる病院を選ぶ

①情報提供依頼
・患者情報の聞き取り
※緊急の場合は救急
要請するよう伝える

③受入可能病院候補を
情報提供
(例：C医療圏の〇〇病院)

④提供情報をもとに連絡・入院調整
依頼医療機関が自ら行う



※ コーディネーター設置の小児中核病院または小児地域医療センター (=委託先医療機関) が窓口となり、依頼があった診療所等から聞き取った患者の状態と、データベースに登録されている情報をもとに受入可能病院候補を抽出し提供する (データベース運用開始時は小児中核病院及び小児地域医療センターに限定予定)。

大阪府が管理



②フォームによる入力・更新



①Myページでの表示

他の医療機関
も同様に表示・
入力・更新

①Myページ
での表示

kViewer

病院名 01 市立豊中病院 医療圏 豊能 小児病床数 31

空床数 1 付添の要否 どちらでも可

循環器 血液・腫瘍 免疫

神経 代謝・内分泌 腎

小児外科 外傷（脳外科・整形） 泌尿器科

眼科 耳鼻科 形成外科

IVIG

注意事項

②フォームに
よる入力・更新

FormBridge

受入可能情報データベース（平時）

病院名* 01 市立豊中病院 医療圏* 豊能 小児病床数* 31

空床数* 1 付添の要否* どちらでも可

循環器* 血液・腫瘍* 免疫*

神経* 代謝・内分泌* 腎*

小児外科* 外傷（脳外科・整形）* 泌尿器科*

眼科* 耳鼻科* 形成外科*

IVIG*

注意事項

回答

①Myページでの表示

各医療機関に個別のURLを配布します。
ログイン作業は不要です。

②フォームによる入力・更新

Myページ内から情報を入力・更新できます。
前回の入力内容が反映されるため、
変更箇所のみを入力いただきます。

※入力内容はイメージです

大阪府が管理



②フォームによる入力・更新



①Myページでの表示

他の医療機関
も同様に表示・
入力・更新

①Myページ
での表示

②フォームに
よる入力・更新

kViewer

FormBridge

受入可能情報データベース (平時)

③各病院の情報を一覧表示

一覧表示を見るURLを配布します。
ログイン作業は不要です。

※入力内容はイメージです

kViewer																				
受入可能情報データベース (平時)																				
	病院名	医療圏	更新日時	小児病床数	空床数	付添の要否	循環器	血液・腫瘍	免疫	神経	代謝・内分泌	腎	小児外科	外傷 (脳外科・整形)	泌尿器科	眼科	耳鼻科	形成外科	IVIG	注意事項
	01 市立豊中病院	豊能	2024-06-25 17:49	31	1	どちらでも可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	02 大阪府衛生会吹田病院	豊能	2024-06-25 18:54	32	2	必要	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	03 大阪大学医学部附属病院	豊能	2024-06-25 18:55	33	3	不要	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	04 国立循環器病研究センター	豊能	2024-06-25 18:55	34	4	どちらでも可	○	×	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	
	05 愛仁会高槻病院	三島	2024-06-25 18:56	35	5	不要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	06 大阪医科大学	三島	2024-06-25 18:56	36	6	不要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	07 市立ひらかた病院	北河内	2024-06-25 18:57	37	7	どちらでも可	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	

事業開始時の入力項目（平時）

※入力内容はイメージです

基本情報

病院名 *	医療圏 *	小児病床数 *	空床数 *	付添の要否 *
01 市立豊中病院	豊能	- 31 +	- 1 +	どちらでも可

対応可能分野

一般感染症 *	循環器 *	血液・腫瘍 *	免疫 *	神経 *	代謝・内分泌 *
<input type="radio"/>					
腎 *	小児外科 *	脳外科 *	整形外科 *	泌尿器科 *	眼科 *
<input type="radio"/>					
耳鼻科 *	形成外科 *				
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				

薬剤等

IVIG *	注意事項
<input type="radio"/>	

事業開始時の入力項目（病床ひっ迫時） ※入力内容はイメージです

基本情報

病院名 *

医療圏 *

小児病床数 *

付添の要否 *

受入可能数

呼吸器感染症（総室） *

受入可能な感染症（限定しない場合は空欄）

消化器感染症（総室） *

受入可能な感染症（限定しない場合は空欄）

非感染性疾患（総室） *

疾患指定なし（個室等） *

受入可能重症度（呼吸器感染症）

軽症（酸素不要） *

酸素必要（マスク、カヌラ等） *

高流量酸素（HFNC） *

人工呼吸管理 *

対応可能

中心静脈カテーテル *

重症細菌感染症 *

IVIG *

注意事項

注意事項

呼吸器感染症受入不可

1. 連絡会議の開催・運営業務について

- コーディネーター配置医療機関は、圏域内小児医療連絡会議事務局として、大阪府と連携のうえ、会議の開催・運営を担っていただきます（年2～3回の開催を想定）。

連絡会議事務局として担っていただく業務の内容

- 連絡会議開催に伴う準備作業（日程調整、出席者への開催通知等）
- 連絡会議の運営（議事進行）
- 連絡会議終了後に行う業務（出席者への謝金支払、議事概要の共有等）

2. 連絡会議の参画メンバー、主な検討事項

連絡会議参画メンバー（案）

- 二次医療圏内にある小児科拠点医療機関（小児中核病院及び小児地域医療センター）
- 関係団体（大阪小児科医会、地区医師会）※小児科一般病院・診療所の代表として位置づけ
- 大阪府災害時小児周産期リエゾン
- 上記以外に、地域の実情を踏まえコーディネーター配置医療機関が適切と考える関係機関（行政機関等）

主な検討事項（案）

- 二次医療圏内における小児医療提供体制に関すること（課題共有等）
- 受入可能情報データベースに関すること
（情報提供事例の共有等）
- 上記のほか、小児医療に係る情報交換に関すること

※このほか、**府域全体の**小児医療について**府が**会議を開催し、各圏域の問題の共有や、受入可能情報データベースの運用等について検討する予定。

（想定する参画メンバー：小児中核病院、コーディネーター配置の小児地域医療センター、大阪小児科医会、大阪府災害時小児周産期リエゾン等）

コーディネーター及び会議運営業務

二次医療圏	病院名	病院所在市区	指定の別
豊能	大阪大学医学部附属病院	吹田市	小児中核病院
三島	愛仁会高槻病院	高槻市	小児地域医療センター
北河内	関西医科大学附属病院	枚方市	小児中核病院
中河内	市立東大阪医療センター	東大阪市	小児地域医療センター
南河内	(協議中)		
堺市	堺市立総合医療センター	堺市西区	小児地域医療センター
泉州	泉大津市立病院	泉大津市	小児地域医療センター
大阪市北部 (都島/東淀川/旭/淀川/北)	大阪旭こども病院	大阪市旭区	小児地域医療センター
大阪市西部 (福島/此花/西/港/大正/西淀川)	愛仁会千船病院	大阪市西淀川区	小児地域医療センター
大阪市東部 (天王寺/浪速/東成/生野/城東/鶴見/中央)	大阪赤十字病院	大阪市天王寺区	小児地域医療センター
大阪市南部 (阿倍野/住吉/東住吉/西成/住之江/平野)	大阪急性期・総合医療センター	大阪市住吉区	小児地域医療センター

今後のスケジュールのイメージ

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委託契約締結		圏域内での連絡会議① データベース内容・運用方法検討会議①			訓練を経て データベース改良		圏域内での連絡会議② データベース内容・運用方法検討会議②		
		データベース仮運用			災害訓練での試験運用		データベース本格運用		

本日の検討部会でご意見等を頂きたい論点について

■事業開始時の入力項目について

- ・追加または削除したほうがよい項目、実際の現場で入院調整を困難にする要因 等

■「平時」と「病床ひっ迫時」の切替について

- ・感染症流行状況や病床ひっ迫状況を適切に評価でき、シート切替の根拠とできる客観的指標 等

■受入可能情報データベースの運用とコーディネート業務の全体について

- ・「平時」「病床ひっ迫時」以外に必要なシート
- ・入力頻度や最適な入力タイミング、今後事業を進めるにあたって目指す方向性
- ・データの取扱ルール 等

「1か月児」及び「5歳児」健康診査支援事業

成育局 母子保健課

令和5年度補正予算：15億円

1 事業の目的

- 乳幼児健康診査については、母子保健法により、市町村において「1歳6か月児」及び「3歳児」に対する健康診査の実施が義務付けられている。また、乳児期（「3から6か月頃」及び「9から11か月頃」）の健康診査についても全国的に実施されている状況となっている。こうした中で、新たに「1か月児」及び「5歳児」に対する健康診査の費用を助成することにより、出産後から就学前までの切れ目のない健康診査の実施体制を整備することを目的とする。
- ※ 本事業による財政支援に加え、必要な技術的支援を行うことより、全国の自治体での「1か月児」及び「5歳児」の健康診査の実施を目指す。

2 事業の概要

◆ 対象者

- ① 1か月頃の乳児 及び ② 5歳頃の幼児

◆ 内容

地域における全ての上記①及び②に該当する乳幼児を対象に、健康診査の実施に係る費用について助成を行う。

① 1か月児健診

実施方法：原則として個別健診

健診内容：身体発育状況、栄養状態、身体の異常の早期発見、こどもの健康状態や育児の相談等

② 5歳児健診

実施方法：原則として集団健診

健診内容：発達障害など心身の異常の早期発見（精神発達の状況、言語発達の遅れ等）、育児上問題となる事項、必要に応じ、専門相談等

◆ 留意事項

- (1) ①の健康診査の実施に当たっては、委託先の医療機関と連携を密に行うとともに、健康診査の結果等の情報の活用などにより伴走型相談支援の効果的な実施につなげる。また、健康診査の実施が虐待の予防及び早期発見に資するものであることに留意し、こども家庭センターなどの関係機関とも連携しながら、必要な支援体制の整備を行うこと。
- (2) ②の健康診査の実施に当たっては、健康診査の結果、発達障害等（発達障害等の疑いを含む。）と判定された幼児について、就学前までに必要な支援につなげることができるよう、関係部局や都道府県等とも協力しながら、地域における必要な支援体制の整備を行うこと。

3 実施主体等

- ◆ 実施主体：市町村
- ◆ 補助率：国1/2、市町村1/2

4 補助単価案

- ◆ 補助単価案：① 4,000円/人（原則として個別健診）
- ② 3,000円/人（原則として集団健診）



【保健施策】

先天性代謝異常等検査
 新生児聴覚検査
 乳児家庭全戸訪問事業
 未熟児・育成・小慢医療費助成
 保健所による市町村への技術的助言

健診ガイドライン作成
 乳児健診価格統一
 屈折検査機器導入助成
 人材育成

【1か月児健診】

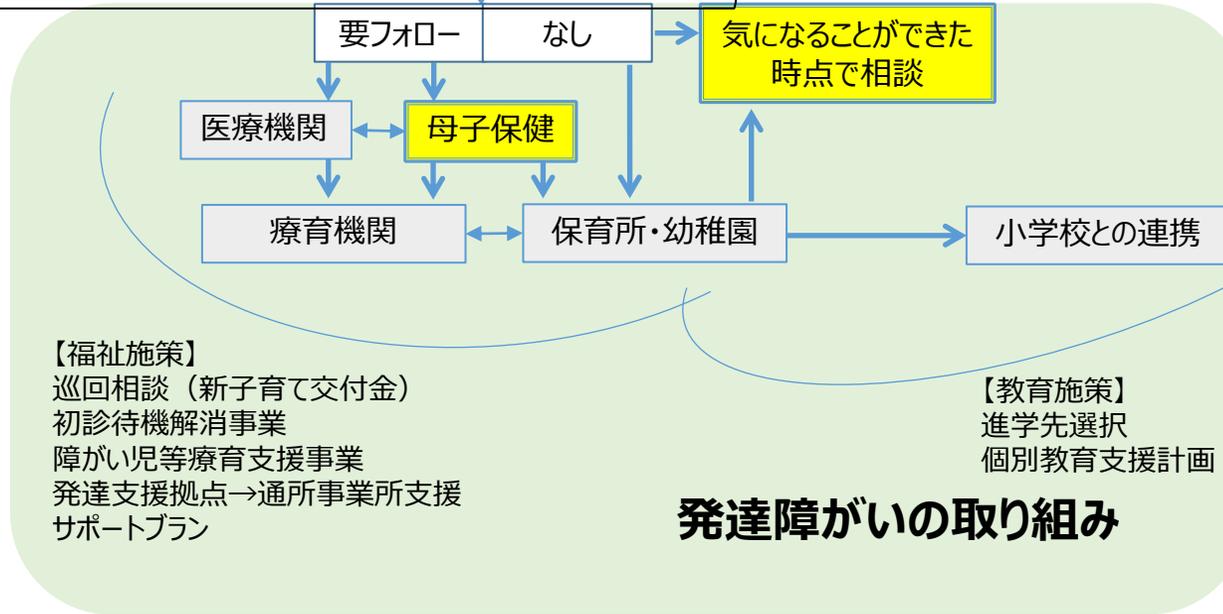
府内全域で乳児一般前期を1か月健診に変更
 ⇒乳児健診ガイドライン改定（R6.3）
 （令和6～7年度は経過期間）

【5歳児健診】

令和5年度以前から守口市（巡回）、能勢町（集団）実施
 令和6年度より新たに5市で実施（予定含む）

【今年度の取り組み】

- ・5歳児健診の課題、取り組み方針を検討するためワーキングを3回程度開催予定
 構成：政令中核市、5歳児健診実施市町、医師、庁内（健康医療部、福祉部、教育庁）
- ・第1回目を5月に実施し、**医師等健診従事者**、紹介先医療機関の確保、療育、教育との連携などサポート体制が必要との意見があった。
- ・府独自の取り組みとして発達障がい問診項目の手引きを作成、このほか市町村において発達相談などの事業を実施しており、支援の必要な方には対応できているのではないかと意見もあった。
- ・これらを踏まえ、全市町村を対象に調査を実施し結果を踏まえ、必要に応じて各種ガイドライン等を修正する予定。



【福祉施策】

巡回相談（新子育て交付金）
 初診待機解消事業
 障がい児等療育支援事業
 発達支援拠点→通所事業所支援
 サポートプラン

【教育施策】
 進学先選択
 個別教育支援計画

発達障がいの取り組み

本日の検討部会でご意見等を頂きたい論点について

■実施にあたっての課題について

- ・健診医の確保、現実的な実施方式、専門医の養成 等

■現状の体制での課題について

- ・発達相談では拾い上げられない、アプローチできない児 等

■今後目指すべき5歳児健診の方向性について

- ・課題や実現可能性を踏まえた、望ましい方式 等